

令和7年度

阿南中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○わかりやすさや必要に応じたICT機器の活用を重視し、生徒の思考を深める授業の実践
○受け入れ合い、学び合う授業の実践

校長

岡田 栄司

学力向上推進員

山田 泰史

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。
メンター研修で、各教員の取り組みや状況の共有を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を習得し、学力の向上をめざす生徒が多い。 ●語彙力の向上や知識・技能の定着、長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・語彙力の向上により、自らの考えや思いを的確な言葉でまとめることができる。 ・様々な学習活動や生活の場面で、習得した知識・技能を活用することができる。	・教科書等の内容を正確に捉えさせるために、アンダーラインを入れながら読み取らせる。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問や教具を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。		・アンダーラインを入れさせることはできたが、どの情報が必要で、何を整理しながら読む（線を引く）のかを理解させることが必要である。 ・タブレット以外にも、分かりやすさのための教具の工夫が必要である。 ・教員相互授業参観の機会が確保できなかった。	・読み取り等に関しては、国語科を中心として、各教科間で指導内容や進捗状況、生徒の理解の実態を共有し、学校全体としての取り組みを強化する必要がある。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業での意見交換や話し合い活動に積極的に取り組み、多様な角度からの見方・考え方を深めようとしている。 ●建設的な意見交換や、自らの考えを言葉としてまとめ、話したり書いたりして伝えることに課題がある。また、文章を正確に読み取る力にも課題がある。	・文章の内容を正確に読み取り、自らの考えをまとめることができる。 ・自分の考えや思考の過程を的確な言葉でまとめ、他者にわかりやすく伝わるよう話したり書いたりしながら、効果的に伝え合うことができる。	・ペア学習やグループ学習等多様な学習形態の機会を効果的に設定する。 ・ICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。		・各教科の実態に応じた学習活動や形態の工夫を行うことができた。 ・タブレットの活用方法をより充実させることで、話し合い活動等を活発に、深まりあるものにする必要がある。	・すべての教科において、生徒主体の学習活動の機会を設定し、生徒同士で学び合う時間を作る。それにより、意欲的に学びに向かわせる工夫を行う。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業に一所懸命取り組むことができる。また、自らの力を伸ばしたいという意思をもち学習に取り組むことができる。 ●わからないことや少し難しいことに対して深く考えたり問い続けたりすること、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・学習課題や疑問点を意識し、学んだことを活用しつつ試行錯誤しながら粘り強く解決策を追究できる。 ・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。	・発問を工夫して対話を重ねたり、タブレットを活用して共同で課題に取り組んだりする活動を多く取り入れる。 ・教員研修（メンター研修）を教員相互の学び合いの場とし、実践事例について情報共有を行う。		・メンター研修の開催頻度が少なかった。ひと月に1回程度実施し、定期的に教員の学びの機会を設定する必要がある。	・メンター研修の定期的な実施。 ・教員同士の学びの場を確保する。